

## 燃油高騰・飼料高騰に対抗！自給飼料増産で酪農経営安定化

事業実施主体名	武本 正道		住 所	倉吉市
プラン認定日	平成21年3月31日	プラン期間	平成21年～平成23年	

### 1 プラン内容

#### (1) 概要

燃油高騰、輸入粗飼料・肥料価格高騰等により生産コストが増大し経営を大きく圧迫しており、飼料用トウモロコシ等の自給粗飼料の増産・品質向上に努めている。(収穫を共同作業) 今後、堆肥散布や播種作業(個人作業)の作業効率の向上を行うことにより、生産コスト削減を図っていく。

#### (2) 取り組みポイント

- 栄養価の高い飼料用トウモロコシを増産して、年間を通して給与量を増やす
- 耕作放棄地の有効活用や作生産業の効率化とコスト低減に取り組む
- 良質堆肥の生産と地域内での利用促進

#### (3) 事業の概要

年度	内 容	事業費 (千円)	補助金額(千円)	
			県	市町村
H21	マニユアスプレッダー 1台(12m <sup>3</sup> ) トラクター145ps 1台	10,000	3,000	1,500
合 計		10,000	3,000	1,500

### 2 プラン実施状況

#### (1) 労働力、経営内容

	認 定 時	現 状
労働力(雇用)	6名	5名
経営内容・規模	経産牛160頭	経産牛147頭

(2) 成果

- ・堆肥散布については、1 回当たりの搬送量増加で効率が上がり、作業時間の短縮になった。
- ・トラクター燃費が改善し、燃料費が低減したと考える。
- ・今後も引き続き、耕作放棄地の利活用や飼料用トウモロコシの 2 期作も含めて栽培面積拡大を進めてゆきたい。
- ・頭数は乳房炎の影響から回復中であり、経産牛概ね 160 頭規模での経営維持を考える。
- ・労働力の確保については、思うように進まず苦勞している。

乳量：平成 23 年目標 12,000 k g 以上

2010 年秋から～ 2011 年夏にかけて乳房炎が多発し、飼育牛の相当数を廃用としたため 10,000 k g 台にとどまった。

回復には 3 年程度を見込んでいるため、目標乳量到達へは 2013 年以降となる。

乳脂比：平成 23 年目標 55%

平成 23 年では 52.6%と目標達成はできたが今後の酪農環境では飼料高騰が予想されるため、粗飼料自給率向上は継続して取り組んでゆきたい。

自給粗飼料栽培面積：平成 23 年目標 30ha

平成 24 年で 28.4ha。今後は 2 期作等への取り組みを含めて面積拡大を図りたい。

主な取り組み内容		現状 H15	実績				
			1年目 H16	2年目 H17	3年目 H18	4年目 H19	5年目 H20
自給飼料栽培面積(ha)	目標		26	28	30	—	—
	実績	24	26	27	29		
			(100%)	(96%)	(97%)		
堆肥散布請負面積(ha)	目標		18	20	22	—	—
	実績	18	14.8	14.8	14.8		
			(82%)	(74%)	(67%)		
経産牛1頭当たり生産乳量(kg)	目標		12,000	12,000	12,000	—	—
	実績	11,307	11,640	10,992	10,784		
			(97%)	(92%)	(90%)		

[中部総合事務所農林局]